

NEWS

新入社員安全衛生教育・ 研修会開催

安全衛生委員会（加山昌弘委員長）は9月11日（月）午後1時30分から、協会3階会議室において会員各社の新入社員30名が参加のもと「新入社員安全衛生教育・研修会」が開催されました。講師として、安全衛生委員会委員の中部保全（株）所長近藤大樹氏、（有）浅井商店代表取締役 浅井明利氏が、自社における経験を踏まえた実践的な研修を行いました。

開会の挨拶で加山委員長は「当産廃業界は怪我や死亡災害が、他の産業と比較して非常に多いです。今回新人の皆さんへのお願いは、何故この業界は事故が多いのかということをよく考え、日々気付いた危険なことは漏れなく上司に報告し、怪我や死亡災害の無い職場にする、という強い気持ちを持っていただきたいと思っております。」と述べました。

研修Ⅰは近藤委員が担当され、産業廃棄物処理業は災害発生率が他業種と比べ高水準であるとのことでした。事故の発生状況を見ると、「挟まれ・巻き込まれ」が一番多く、これは機械の点検中に誰かが電源を入れて挟まれてしまった、修理中に挟まれた、パッカー車で巻き込まれた等、よくある事例につき注意を促しました。「墜落・転落」では、フックロール車から降りる際に転落、「転倒」では分別作業中に足元の缶で足を滑らす等、不注意から起こる事故も多いとのことでした。また、酸素欠乏症等防止規則のピット内作業について、必ず酸素欠乏危険作業主任者と一緒にピット内作業をするとのことでした。ヒヤリハット事例では、脚立を使う作業においては脚立を誰かに押さえてもらう、階段やデッキ等では走らない等の、ちょっとしたことで事故を未然に防ぐことができるとのことでした。また指差し呼称は近藤委員自身も必ず行っており、行っていないところは3倍事故が多いので「指差し呼称」を推奨されました。

研修Ⅱは浅井委員が担当され開口一番、労働災害



は新入社員ではなく仕事に慣れてきた時が一番危ないので、その時期にテキストを読み直してほしいとのことでした。品物の積み方の心得では、ご自身の経験から坂道で車の輪止めをしなかったので車が動いてしまったことがあり、注意を促しました。また作業服の着用の中にある軍手について、機械回転部分の作業では軍手はつけないが、パッカー車では軍手は必携であるので、作業状況により着用するもの、しないもの、をしっかりと見極め作業事故を防いでほしいとのことでした。構内の通行ルールでは、両手に荷物を持って階段の昇降を行わないとのことですが、実務において両手で荷物を抱えて階段の昇降は多いため、受講者にどのような対応をしているか質問しました。その問いに対して加山委員長からは荷物を背負って運ぶのはどうだろう、との意見があり、このテーマについては、受講者それぞれが会社で確認をするという宿題となりました。危険物に関しては、性状のわからないものは絶対に触れない！と強くアドバイスがあり研修を終えました。

閉講の挨拶で加山委員長から「命が第一です！安全安心をもって家に帰ることが第一です。」と締めくくり研修会を終え、事務局専務理事 渡邊 修氏より修了証が授与されました。

[受講者の感想]

- ・受講して、慌てず落ち着いて行動することが重要であると感じた。以前作業事故を起こしそうになってしまったので、今後は気を付けたい。
- ・危険がないか、これで良いというのは周りが決めるので、確認作業が大切であると知った。
- ・事務職だが、現場における安全に理解が深まった。
- ・入社したばかりだが、安全についてよくわかりました。